

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 多機能型通所支援事業所なないる 公表日 R8年 2月 16日

Main evaluation table with columns: チェック項目, はい, いいえ, 工夫している点, 課題や改善すべき点. Rows are categorized into 環境・体制整備, 業務改善, 適切な支援の提供, 関係機関や保護者との連携, 保護者への説明等, 非常時等の対応.

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	多機能型通所支援事業所ないる	公表日	R8年 2月 16日
------	----------------	-----	------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・利用定員に対して十分なスペースが確保されている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		・利用定員や子どもの状態に応じた職員配置を行い、適切な支援ができる体制を整えている。	・規定の配置はできているが、支援+記録に追われており、情報共有の時間の確保が難しい。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	・バリアフリー化が必要な利用者がいないため、バリアフリー化なし ・完全なバリアフリー化はしていないが、現在の利用児の特性に応じた環境設備を行い、支障なく過ごせるよう配慮している。 ・靴箱には視覚的な目印をつけるなど、わかりやすい環境づくりを意識している。 ・バリアフリー化はされていないが、障害特性に応じて環境設定に配慮している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・毎日の清掃や整理整頓を徹底し、清潔で快適な空間づくりを心がけている。子どもたちの活動に合わせたレイアウトや備品配置を意識し、安心して過ごせる環境を提供している。 ・支援前に掃除を行なっている。また活動に合わせて教材を準備し環境設定をしている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・基本的に個別指導を行なっている。 ・基本的には個別支援を行なっている。必要に応じて小集団も取り入れている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		・職員間で定期的に意見交換を行なっている。 改善案を出し合い、実行・評価を通じて支援の質向上を図っている。 ・支援後や空き時間で報告も含めて振り返りを行なっている。必要に応じて支援会議も行なっている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・保護者向け評価表を定期的に配布し、意見を収集している。 収集した意見を職員間で共有し、サービスの改善に活かしている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・職員会など意見や提案をする機会を設け、支援の質や職場環境の向上に活かしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		・定期的に第三者による外部評価を受け、その評価結果を業務改善に活かしている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・職員の資質向上のため、定期的に外部研修を受講する機会を提供している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・作成したプログラムはHPにて公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		・定期的なアセスメントを行なっている。 保護者からのフィードバックも重要な情報源とし、家庭での状況を反映させた支援計画を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・支援会議を行い、職員間で支援内容や目標について意見交換を行なっている。 ・担当者会議やモニタリングの内容を議事録で残し、職員に共有している。また、個別支援計画書の原案を基に支援会議を行い、子どもの状態の把握、それに伴っている支援目標かどうか話し合せて計画書を作成している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・作成後すぐに職員間で共有され、全職員が計画内容を理解し、計画に沿った支援を行なっている。 ・個別支援計画書が作成されたら、支援会議に参加できなかった職員にも共有している。また、事前に出勤前に目標や最近の様子を打ち合わせている。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		・Connors3、CARS2、新版k式発達検、PS感覚プロフィール、TK式幼児用関心関係検査の活用、日常の支援の中で観察された行動の変化を記録し、保護者からのフィードバックも取り入れている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・支援計画はガイドラインに基づいて作成している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		・定期的な職員会を通じて、活動内容や目標を共有し、チーム全体で意見を出し合いながらプログラムを調整している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		・子ども一人ひとりの成長や発達に合わせて柔軟に調整している。 定期的にプログラムを振り返り、子どもの反応や進捗をもとに内容改善している。 また、職員同士で意見交換を行い、新しいアイデアや方法を取り入れることで、活動内容が固定化しないよう工夫している。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		・基本的には個別支援を行い、子どもの特性に応じた支援を提供している。集団活動が必要とされる利用児には、インクルーシブ保育を取り入れ、子ども一人ひとりのニーズに応じた支援を行なっている。 ・基本的には個別支援ではあるが、子どもの状況と目標によっては小集団支援を行なっている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		・支援開始前にホワイトボードを使っての確認、共有を行なっている。 ・前日や当日の朝支援前に打ち合わせている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・固定化された時間を設けてはいないが、支援後都度、口頭や文書等で共有している。 ・支援後出勤している職員同士で支援の様子を振り返り、得意・不得意を確認している。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・成長療育システムHUGを使用し、日々の記録、見直し、支援の改善に繋げている。 ・支援後必ず記録を取っている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7		・「日常生活の充実と自立支援」「多様な遊びや体験活動」「子どもが主体的に参画できる活動」を組み合わせて支援を行なっている。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		・自己選択の機会を与えるだけでなく、環境に適応する力を育てることを重視している。「今の状況でどんな選択が適切か」を考えさせる機会を作り、状況に応じた判断ができればよう支援している。 ・自己決定が苦手な児童に対して、2-3択の選択肢を用意し、自己決定から自分の意思を主張できるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・児童管が多いが、支援員や専門員が参加することもある。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		・定期的に共同の会議を通じて、支援内容を調整している。 ・必要があれば連携会議を行なっている。また、担当者会議などで参加できそうであればお願いをしている。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		・保護者からの情報提供をもとに対応を行なっている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		・必要に応じて保護者を通じた情報提供を受けている。 ・放課後等デイサービスに移行するために担当者会議を行なっている。 保育所や幼稚園、認定こども園についても、参加を呼びかけている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	・該当者なし ・現在該当者はいないが、必要があれば情報提供を行おうと思っている。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2		・現在、地域の児童発達支援センターとの連携が不十分であり、スーパーバイズや助言を受ける機会が限られている。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	6	1	・インクルーシブ保育を通じて、利用児が他の子どもたちと一緒に活動する機会を提供している。 ・併設しているこども園の学童とのインクルーシブ活動を通じて、交流する機会がある。	
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	1	6		・時間帯が合わず、参加できていない ・現在、自立支援協議会への参加が十分でない部分があり、地域の支援体制に十分に関わりきれていない。 ・時間が合わず参加が難しい。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・成長療育システムHUG内の連絡帳を活用し、保護者と情報共有を行なっている。 ・成長療育システムでのやり取りや送迎時に直接お伝えしている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	・定期的に親子ふれあい参観を実施し、保護者と子どもが一緒に活動する場を提供し、支援方法や家庭での関わり方について共に学ぶ機会を作っている。 ・ペアレント・トレーニングは行っていないが、講演会(または座談会)を行なっている。	
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・初回の面談時に詳細に行い、必要に応じて再度確認の機会を提供している。 ・契約時に説明している。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・面談時に支援内容や目標に対する希望、意見を伺い、支援計画に反映させている。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		・都度時間をいただき、ご説明している。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・必要に応じて面談の機会を設け、悩みに対する助言やサポートを提供し、必要な支援につながるよう努めている。	
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	・定期的に講演会を行っており、保護者同士で交流する機会を設けている。 ・保護者会というものはないが、講演会や座談会、相談会、親子ふれあい参観などで保護者同士やきょうだい同士の交流する機会を設けている。	・講演会はしているが、父母の会はない。
	41 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・相談窓口について掲示し、保護者がどこに相談すればいいかを明確に示している。	
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1	・成長療育システムHUGを通じて子どもの支援の進捗状況を共有し、保護者が適切に情報を得られる環境を整えている。	
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・鍵付きの棚に保管している。 職員には情報保護の重要性を周知し、適切な管理が行われるよう努めている。	
	44 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・個々のニーズに応じた配慮を行い、わかりやすい情報提供を心がけている。 保護者には成長療育システムHUGを通じて支援の進捗や重要な連絡を伝える必要に応じて個別面談の機会を設けている。	
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	・講演会を定期的に行なっている。 ・講演会の実施	
非常時等の対応	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		・各種マニュアルを策定し、利用契約時に保護者へ周知している。職員間でもマニュアルの内容を確認し、必要に応じて見直しを行なっている。 ・安全計画など契約時に周知。職員についてもマニュアルを周知した上で訓練を実施している。	
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・併設しているこども園とBCPを踏まえて防災訓練を実施している。	
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		・利用開始時に保護者から健康に関する情報を確認している。 必要に応じて情報の更新を行い、職員間で共有することで、緊急時に迅速な対応ができるよう努めている。	
	49 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・食事の提供は行っていないが、他のアレルギーの配慮は行っており、医師の指示書にも基づいた対応をしている。 ・施設での食事はアレルギーに留意している。	
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		・併設しているこども園と合同で避難訓練・防犯訓練の実施、事業所内でも身体拘束・虐待防止研修、感染症研修・感染症訓練、防災訓練・BCP研修などを実施している。	
	51 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		・契約時に説明している。	
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・ヒヤリハットした事例があれば、報告書を作成し周知・検討している。	
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		・身体拘束が必要かどうかの判断を身体拘束適正化委員会のもとで行っており、個別のケースに基づいて慎重に検討している。		

公表 事業所における保育所等訪問自己評価結果

事業所名 多機能型通所支援事業所なないろ 公表日 R8年 2月 16日

Main evaluation table with columns: チェック項目, はい, いいえ, 工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など. Rows include categories like 環境・運営・体制整備, 業務改善, 適切な支援の提供, 関係機関や保護者との連携, 保護者等への説明等, 訪問先施設への説明等, 非常時等の対応.